



今川了俊歌道三書

伊地知文庫
文庫20
299



あつては老翁の如くはこゝろをこゝろに死してはるる
言事なるは——寺の事とては、*Shōkyō*の如くは
*Shōkyō*の如くは、*Shōkyō*の如くは、*Shōkyō*の如くは
ゆひの如くは——*Shōkyō*の如くは、*Shōkyō*の如くは
けつての如くは——*Shōkyō*の如くは、*Shōkyō*の如くは
ちり節又ハ風雲を来す雲月を去すの如くは、*Shōkyō*の如くは
性——を極と言ふは、*Shōkyō*の如くは、*Shōkyō*の如くは
別せし務を——*Shōkyō*の如くは、*Shōkyō*の如くは
あつては、*Shōkyō*の如くは、*Shōkyō*の如くは、*Shōkyō*の如くは
の如くは、*Shōkyō*の如くは、*Shōkyō*の如くは、*Shōkyō*の如くは
とせたるは、*Shōkyō*の如くは、*Shōkyō*の如くは、*Shōkyō*の如くは
十年十年の如くは、*Shōkyō*の如くは、*Shōkyō*の如くは、*Shōkyō*の如くは

寺の如くは、*Shōkyō*の如くは、*Shōkyō*の如くは、*Shōkyō*の如くは
とせたるは、*Shōkyō*の如くは、*Shōkyō*の如くは、*Shōkyō*の如くは
あつて書集あつたり——*Shōkyō*の如くは、*Shōkyō*の如くは、*Shōkyō*の如くは
——*Shōkyō*の如くは、*Shōkyō*の如くは、*Shōkyō*の如くは、*Shōkyō*の如くは
よめ、*Shōkyō*の如くは、*Shōkyō*の如くは、*Shōkyō*の如くは、*Shōkyō*の如くは
と——*Shōkyō*の如くは、*Shōkyō*の如くは、*Shōkyō*の如くは、*Shōkyō*の如くは
と、*Shōkyō*の如くは、*Shōkyō*の如くは、*Shōkyō*の如くは、*Shōkyō*の如くは
乃、*Shōkyō*の如くは、*Shōkyō*の如くは、*Shōkyō*の如くは、*Shōkyō*の如くは
と、*Shōkyō*の如くは、*Shōkyō*の如くは、*Shōkyō*の如くは、*Shōkyō*の如くは
好むとて、*Shōkyō*の如くは、*Shōkyō*の如くは、*Shōkyō*の如くは、*Shōkyō*の如くは
す——*Shōkyō*の如くは、*Shōkyō*の如くは、*Shōkyō*の如くは、*Shōkyō*の如くは
と、*Shōkyō*の如くは、*Shōkyō*の如くは、*Shōkyō*の如くは、*Shōkyō*の如くは

いふ言の初とていふ師流の教の事
上人云今集の言をいふとて
此の言の初とていふ師流の教の事
と指し示す

一 言の初とていふ師流の教の事
万葉集の言をいふとて
白鳥の言をいふとて
左の言をいふとて
まの言をいふとて
海に言をいふとて
今集の言をいふとて
白鳥の言をいふとて
左の言をいふとて
まの言をいふとて
海に言をいふとて
今集の言をいふとて

一 言の初とていふ師流の教の事
まの言の初とていふ師流の教の事
言の初とていふ師流の教の事
一 言の初とていふ師流の教の事
今集の言をいふとて
白鳥の言をいふとて
左の言をいふとて
まの言をいふとて
海に言をいふとて
今集の言をいふとて
白鳥の言をいふとて
左の言をいふとて
まの言をいふとて
海に言をいふとて
今集の言をいふとて

古歌三句

多集の書より虫をとり多し
潜る書
師統

多集の書より虫をとり多し
潜る書
師統

多集の書より虫をとり多し
潜る書
師統

Handwritten text in cursive script, likely a list or account. The text is written in a fluid, connected style. It appears to be organized into several columns or sections, possibly representing different items or transactions. The script is dense and fills most of the page.

Handwritten text in cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style. It appears to be organized into several columns or sections, possibly representing different items or transactions. The script is dense and fills most of the page.

お国な色

大いなる

まじり

万葉全章と書かう

〜

子

〜

万葉全章と書かう

〜

万葉全章と書かう

〜

万葉全章と書かう

〜

万葉全章と書かう

〜

市の梅

市の梅

枝

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

よあり 後親抄云みかみいりり 廻りまじり
まじり 舟に浪をあせしむるを編むかみ
まじり云みかみいりり 廻りまじり
かみいりり 舟に浪をあせしむるを編むかみ

ゆづり 指人の麻と指りし時 身陰し 葉をまじり 打ちまじり
ゆづり 葉をまじり 葉をまじり 葉をまじり 葉をまじり
工をまじり 葉をまじり 葉をまじり 葉をまじり 葉をまじり
申し 山まじり 山まじり

いりり 交扱方とて 麻のより 事と射目と合せ
まじり 葉をまじり 葉をまじり 葉をまじり 葉をまじり
まじり 葉をまじり 葉をまじり 葉をまじり 葉をまじり
まじり 葉をまじり 葉をまじり 葉をまじり 葉をまじり

芥しむる 結補抄

いりり 交扱方とて 麻のより 事と射目と合せ
まじり 葉をまじり 葉をまじり 葉をまじり 葉をまじり
まじり 葉をまじり 葉をまじり 葉をまじり 葉をまじり
まじり 葉をまじり 葉をまじり 葉をまじり 葉をまじり

いりり 交扱方とて 麻のより 事と射目と合せ
まじり 葉をまじり 葉をまじり 葉をまじり 葉をまじり
まじり 葉をまじり 葉をまじり 葉をまじり 葉をまじり
まじり 葉をまじり 葉をまじり 葉をまじり 葉をまじり

いりり 交扱方とて 麻のより 事と射目と合せ
まじり 葉をまじり 葉をまじり 葉をまじり 葉をまじり
まじり 葉をまじり 葉をまじり 葉をまじり 葉をまじり
まじり 葉をまじり 葉をまじり 葉をまじり 葉をまじり

いりり 交扱方とて 麻のより 事と射目と合せ
まじり 葉をまじり 葉をまじり 葉をまじり 葉をまじり
まじり 葉をまじり 葉をまじり 葉をまじり 葉をまじり
まじり 葉をまじり 葉をまじり 葉をまじり 葉をまじり

きし壇をかゝるて焼くは信濃
船は流るつても流るくつても
甲あまうし 香取流の舟もあまのまて
あまうし 西谷つても流るを
あまうし

あまうし 舟の腰下帯を
あまうし 舟の緒とあまの枝を
あまうし 舟の緒とあまの枝を
あまうし 舟の緒とあまの枝を
あまうし 舟の緒とあまの枝を

あまうし 舟の緒とあまの枝を
あまうし 舟の緒とあまの枝を
あまうし 舟の緒とあまの枝を
あまうし 舟の緒とあまの枝を
あまうし 舟の緒とあまの枝を

あまうし 舟の緒とあまの枝を

あまうし 舟の緒とあまの枝を
あまうし 舟の緒とあまの枝を
あまうし 舟の緒とあまの枝を
あまうし 舟の緒とあまの枝を

あまうし 舟の緒とあまの枝を
あまうし 舟の緒とあまの枝を
あまうし 舟の緒とあまの枝を
あまうし 舟の緒とあまの枝を

あまうし 舟の緒とあまの枝を
あまうし 舟の緒とあまの枝を
あまうし 舟の緒とあまの枝を
あまうし 舟の緒とあまの枝を

あまうし 舟の緒とあまの枝を
あまうし 舟の緒とあまの枝を
あまうし 舟の緒とあまの枝を
あまうし 舟の緒とあまの枝を

あまうし 舟の緒とあまの枝を

あまうし 舟の緒とあまの枝を
あまうし 舟の緒とあまの枝を
あまうし 舟の緒とあまの枝を
あまうし 舟の緒とあまの枝を

代官・加持せしむるも云は流ハ表代也

うせせきとては 奥九時登りし物と水底よりせて奥と

流のてりしと 後流と言ふ流のりしと 流のりしと

・ 二重のりしと

ぬいしものひのいしと 衣の裾破れてほろのりて海松

（さしつゝふれりしと）

鷲衣と 鷲の毛乃破るしと 鷲の毛と

赤しひくと 赤き袴の裾の破るしと 赤き袴と

（のりしと）

水むらと 水置ぐ接の袖の宿のきしと 水むらと

（さしつゝふれりしと）

とまはしつゝふれりしと せぬしと 水むらと

（さしつゝふれりしと）

ひのりしと 物のりしと 物のりしと

（さしつゝふれりしと）

鳩のりしと 流多く一流と 初流と 二流と 指人らと

（さしつゝふれりしと）

留板鳩のりしと

このりしと 是れ流と 是れ流と 神のりしと

（さしつゝふれりしと）

（さしつゝふれりしと）

（さしつゝふれりしと）

（さしつゝふれりしと）

いふもあはれしむねはかきかへしは海あはれは
決つるをいふ海へまはるは海へ

いふもあはれしむねはかきかへしは海あはれは

万葉のさぬ甲の事いひしをわにしあはれしむね
いふもあはれしむねはかきかへしは海あはれは
とあはれしむねはかきかへしは海あはれは
二人甲もあはれしむねはかきかへしは海あはれは
し女墳といふ

野の多しきと昔野申を甲女らひてあはれしむね
いふもあはれしむねはかきかへしは海あはれは
なるを教へり甲後よとあはれしむね
いふもあはれしむねはかきかへしは海あはれは

鳥の電よきと昔野申を甲女らひてあはれしむね
いふもあはれしむねはかきかへしは海あはれは
後於云野の多しきと昔野申を甲女らひてあはれしむね
いふもあはれしむねはかきかへしは海あはれは

かひよ花と定あはれしむねはかきかへしは海あはれは
いふもあはれしむねはかきかへしは海あはれは

又あはれしむねはかきかへしは海あはれは
いふもあはれしむねはかきかへしは海あはれは
いふもあはれしむねはかきかへしは海あはれは
いふもあはれしむねはかきかへしは海あはれは
いふもあはれしむねはかきかへしは海あはれは
いふもあはれしむねはかきかへしは海あはれは

ちぢなむしと

源ついでに傳も可源と云々の初言の奇なるのいし
奇の出来事の中の傳も其人の如くも言の主なる如くも言
少く傳もかまて傳り是別別の言と号く自今以後世の人
如く不可傳といふも如く傳り是是初初初の言もきく
よくついで今も可源と但初初初言と云々言と云々
と云一帖は按書に傳り傳書は皆を代の上の道と云々も初公
の人不堪の人をいふ如く初言も言も可傳初初初其如く
如何と云々も可源と云々も初言も言も可傳初初初其如く
當時為尹心の源守の中の時く新言よも如く初初初初初初
と云初公の人のよむハ必是中初初初初初初初初初初初初
初初の中も生得と初初初初初初初初初初初初初初初初初
とも上のハ又ハ初初初初初初初初初初初初初初初初初

和尙定家家隆寂蓮教政仲正かまの人の口説とて天性と
も云々の志願の生得と云々の初初初初初初初初初初初初
代のいつのも上の教書に傳りも口の生得と云々の初初初
と云一帖は初初初初初初初初初初初初初初初初初初初
二初と云々の源守と云々の初初初初初初初初初初初初初
如く一為尹の初初初初初初初初初初初初初初初初初初
場におもひも初初初初初初初初初初初初初初初初初初
さるゆたも一帖は初初初初初初初初初初初初初初初初初
のまて拂の款一頁と云々の初初初初初初初初初初初初初
法師と云々の人丸赤人の如く初初初初初初初初初初初初
一すうりて只一初初初初初初初初初初初初初初初初初
て初初初初初初初初初初初初初初初初初初初初初初初

